

8709 「あたし、夜景、大好き」

「あたし、夜景、大好き」

「もう、ここに住んで三年になるけど、引っ越してきた最初の一週間ってものは、毎日、夕暮から夜にかけて、窓のそとばかり見てたな」

「四十一階に住んでるなんて、霞が関ビルより高いところで暮らしてるんだね」

「マンハッタンじゃ、四十階っていっても、そんなに高いとは思わないけどね。五十階のビルなんて、たくさんあるから」

「そうだね、二十階の二倍以上あるって感じはしないね。でも、やっぱり高いよ」

田中 りえ『おやすみなさい、と男たちへ』

[許容訳例]

"I'm very fond of night views."

"Three years have passed since I came here, but the first week after moving here, from sunset to dark every day I just gazed out of the window."

"Living here on the forty-first floor...it means that you're living up higher than the top of the Kasumigaseki Building."

"Here in Manhattan, the fortieth floor isn't considered so high. There are a lot of buildings of fifty floors or more."

"Yes, there are. I don't feel here I am more than twice as high up as the twentieth floor. But it is high, though."

[翻訳例]

"I'm very fond of this kind of view at night."

"I've been living here for three years by now, but the first week after I moved here I spent all the time from sunset on into the early evening every day just gazing out of the window."

"Having a home on the forty-first floor it means you're living up higher than the top of the Kasumigaseki Building!"

"In Manhattan, you don't think of forty floors as particularly high. I mean, there are lots of buildings of fifty stories or more."

"Yes, there are, aren't there? You certainly don't feel this is more than twice as high up as a twenty-story building, do you? And yet...it is high all the same."

■ 「あたし、夜景、大好き」(8709)

★ 「夜景」は a night view です。一般論とするなら night views と無冠詞複数です。

★ 「大好き」は be very fond of ~ が口語的で最も適当です。ただし、like ~ very much でも構いません。「見るのが大好き」という意味に解釈して動詞を加えるとすると see (自然に目

に入る)は駄目です。また夜景が動いているわけではないので watch も使えません。look at でしょう。辞書には「大好き」に be deeply attached to を出していますが、これは‘(慣れ親しんで)愛着がある’というニュアンスで、たとえば、I have been living here for twenty years, so I'm deeply attached to this place. のように使います。それから、ここでの発言者が「わたし」と言っているので女性であることは日本語ではわかりますが、英語では I ですから区別できません。発言者が女性であることを示すとすると I love ~ あるいは I just love ~ を使うと示すことが出来ます。

●文解釈(「わたし、夜景、大好き」を訳す)

「わたし、夜景、大好き」は普通の文に直すと「私は夜景が大好きです」(I'm very fond of (looking at) night views.)となります。もとの文との違いは、前者が、多分実際に夜景を見ながら言っているのに対して、後者は一般論的ということです。原文通りに、実際に夜景を眼前にして言っている感じを伝えたいなら「わたし、こういう夜景、大好き」と補って I'm very fond of this kind of view at night. でしょう。

■「もう、ここに住んで三年になるけど、引っ越してきた最初の一週間ってものは、毎日、夕暮から夜にかけて、窓のそとばかり見てたな」

★「もう・・・になる」と言うときには by now を使うと一番いいケースが多いと思います。already は「もうすでに」の意味で、いかに時間が速く経過したかということに重点が置かれます。たとえば、I've been living in this house three years already. But I still haven't put a carpet on the floor. のように使います。

★「ここに住んで三年になる」は I've been living [I've lived] here for three years. です。Three years have passed since I came here. は文法的には間違いないのですが、かなり文学的と言うか poetic な感じで、堅すぎてこのような会話では好まれません。

★「引っ越してきて最初の一週間」は (for) the first week after I moved here [after I moved in] です。なお、(for) the first week after moving here でもいいです。

★「毎日」は every day で、two words です。

★「夕暮れから夜の時間」は from sunset to dark でもいいですが、「～から～にかけて」は from ~ on into ~ というのが普通です。たとえば、from the end of April (on) into (early) May のように使います。ここでは all the time from sunset on into the early evening でしょう。なお「～にかけて」に toward も考えられますが、toward evening というと as it got close to evening とか around dark というように「夕暮れ近くなると」という感じになります。ついでながら、ここでは sunset に冠詞は不要です。ここでは sunset は時間的概念で使われているわけで、たとえば、When is sunset today? --Sunset is at six. のように使います。これに対して He was gazing at the sunset. のように the を付けると、the sun とか the moon と同じで、sunset の具体的なそのときの状態をさすことになります。

★「窓のそとを見る」は gaze [look] out of the window です。watch は動きのある物に、また、see は自然に目にひる場合ですから不適当です。

★ 「ばかり (見てた)」は just を用いて I just gazed...とするのが一番いいでしょう。なお、前に every day があるので was always gazing...とするのは饒舌過ぎます。

★ 「見てた」は「見て過ごしていた」と考えて spent ~ just gazing...と訳すことも出来ます。

■ 「四十一階に住んでるなんて、霞が関ビルより高いところで暮らしてんのだね」(8709)

★ 「四十一階に住んでるなんて」は「四十一階に住むことは」と考えます。なお、この日本文では「住む」と「暮らす」が出てきます。英語ではどちらも同じ動詞(live)で表します。しかし、日本文では「住む」と「暮らす」と別語が用いられているのですから、英語でも別の表現にしたい。それで、「四十一階に住んでいるなんて」を「四十一階に住居を持っているということは」とするといいでしよう。ですから、Living (here) on the forty-first floor でもいいですが、Having a home on the forty-first floor とすることも出来ます。

★ 「霞が関ビルより高いところで (住んでいる)」は誤り易い。live in a higher place than the Kasumigaseki Building とすると、place は building を指すことになり in a building which is higher than the Kasumigaseki Building となって、建物と建物の高さを比較することになってしまいます。ところが、日本文は必ずしもそういう意味でありません。ここではある一ヵ所を別の建物の高さと比較している、つまり、日本文の意図は「四十一階」と「霞が関ビルのてっぺんの高さ」とを比較しているので、「霞が関ビルのてっぺんより高いところで暮らしている」と改め、higher を副詞に使って (live) up higher than the top of the Kasumigaseki Building となります。

★ 「暮らしている」は you live でも you are living でも構いません。この進行形の使い方は「状態の強調」です。

★ 「だね」は「という事になるね」と考えて、it means (that)...とします。

● 「・・・なんて」を訳す

「四十一階に住んでるなんて、・・・」のニュアンスを出すには、ここでは Having a home [Living (here)] on the forty-first floor means...とすぐ続かないで、Having a home [Living (here)] on the forty-first floor --it means...とダッシュを入れて it means...と続けることで表せるのではないかと思います。

■ 「マンハッタンじゃ、四十階っていっても、そんなに高いとは思わないけどね。」(8709)

★ 「マンハッタンじゃ」は「マンハッタンでは」ということですから、(here) in Manhattan です。

★ 「四十階っていっても」は二つの考え方が可能です。一つは「四十階」を「四十階目」ととると、もう一つは下から四十階重ねたものととるのです。どちらの考えも英語として可能です。したがって、「四十階」は the fortieth floor でもよいし、forty floors としてもいいです。

★ 「そんなに高いとは思わないけどね」は、前の「マンハッタンじゃ」と重ねると「マンハッタンでは(人々は)・・・と思わない」と解するのが普通です。ところで、日本文には「人々」は出てないのであるから、英文でも出したくないなら「マンハッタンでは、四十階は高いと思

われて〔考えられて〕いない〕のように受動態にすればいいでしょう。the fortieth floor isn't considered so high [all that high; particularly high] ですが、主語を人になるとすれば、自分も含めて他の人も（マンハッタンでは）そう思われていると解釈するなら you don't think of forty floor as particularly high です。この場合の you は「われわれは」という感じです。あるいは、If you asked me [my opinion]を前提にすると I wouldn't consider [call] the forty floors [the fortieth floor] particularly [so; all that] high です。なお、I don't think...は、はつきり自分の意見だということが出てしましますから使わない方がいいと思います。

■五十階のビルなんて、たくさんあるから」(8709)

★「五十階のビルなんて、たくさんある」は There are a lot of [lots of] buildings of fifty floors high.でもいいですが、欲を言えば high という言葉の重複を避けて There are a lot of [lots of] buildings of more than fifty floors [stories].とすればいいと思います。ただ、この「五十階のビル」は、後に「なんて」がついていることで、一つの例として言ったことになります。したがって、英語では「五十階そらのビル」(buildings of fifty floors [stories] or more)としないと「五十階ぴったりのビル」という意味になってしまいます。それで、「五十階のビルなんて、たくさんある」は There are a lot of [lots of] buildings of fifty floors [stories] or more. とします。

★「・・・から」ですが、日本語には「・・・から」で終わる文がよくあります。英語では何も入れる必要のない場合が多いのですが、強いて入れるとするなら、最初に I mean を補えばいいと思います。

■「そうだね、二十階の二倍以上あるって感じはしないね。 (8709)

★「そうだね」は「ええ、(たくさん) あるね」と相手の言葉に同意したのです。Yes, there are.ですが、「よく納得した」という感じでよく使われる言い方、Yes, there are, aren't there? でもいいでしょう。

★「二十階の二倍以上ある」は「二十階の二倍以上(高い)」ということですから more than twice as high (up) as the twentieth floor [a twenty-stories building]です。

★「・・・って感じはしないね」は、このままでは誰が、あるいは、何が二十階の二倍以上ある」と言っているのかわかりません。「感じはしない」を手掛りに考えると、一つは「(今四十一階に自分はいるけど) 私は二十階の二倍以上の高さにいるって感じない」という自分の感じを相手に伝えていると考えることができます。その場合は I don't feel here I am... となります。もう一つは、相手も自分も含めて「(一般的に言って) ここが二十階の二倍以上あるとはとても感じられない、わね?」と考えることもできます。その場合は You certainly don't feel this is....となります。この You も one と同じで一般的な用法です。それから certainly を加えることで「確かに・・・だね」というニュアンスが出るのではないかと思います。

■でも、やっぱり高いよ」(8709)

● [でも] (逆接)

「でも」は「しかし」と言い換えることが出来ますから「逆接」で、 and yet でも but でもかまいません。

★「やっぱり」は even so とか、 all the same か、 though を副詞として用いるかでしょう。 all the same は even so とまったく同じで、 Even agreeing that what I've just said is true, yet... という感じで「いまそうじゃないと思わせるようなことをいったけど、それでも・・・」といったニュアンスになります。

★「高いよ」は it is high ですが、 is をイタリックスにしておくといいでしよう。

●「(でも,) やっぱり高いよ」の「よ」について

「(でも,) やっぱり高いよ」は普通の文に書き換えると「それでも [それは言っても] やはりここは高いと思うよ」という感じで、「思う」が表に出てきます。しかし、ここは意見を述べているのではないので I think は使えません。 I feel なら許されるでしょう。